



舞鶴ちゃったスポーツクラブ

地域スポーツクラブと部活動の連携

近畿ブロッククラブネットワークアクション2022

第3分科会 事例発表 鈴木 元（舞鶴ちゃったスポーツクラブ会長）

京都府地域部活動推進事業の概要

取り組み内容: 4つのパターン

1 地域スポーツ団体との連携

地域スポーツ団体との連携を推し進め、地域部活動を積極的に開始するモデル
2市町の実践研究から、具体的な連携モデルの提示を想定
プロスポーツとの連携を模索 等

2 府立学校との連携

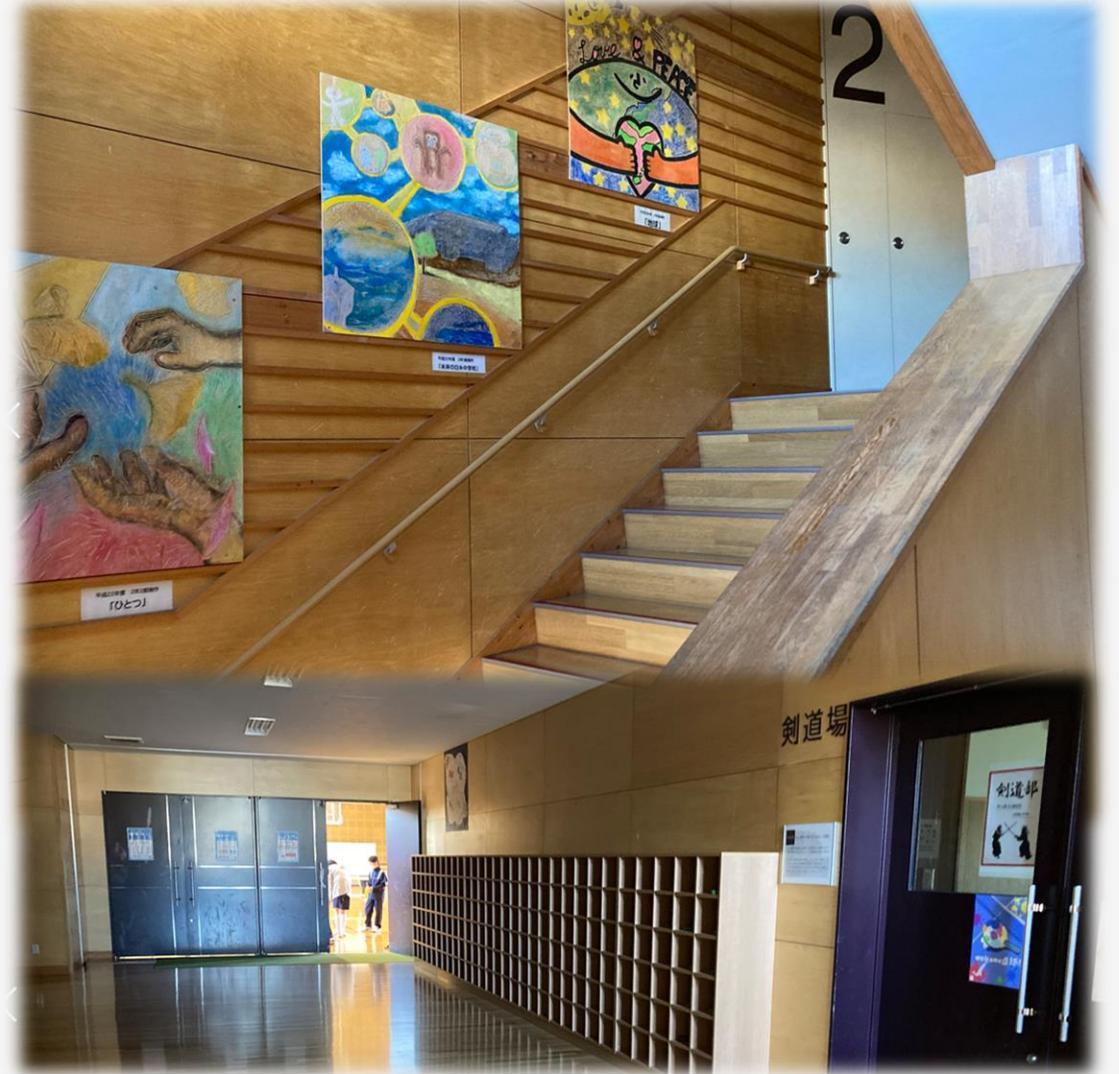
府立学校の開放型地域スポーツクラブや各校で実施のスポーツ教室等を充実・
活用し、地域の中学校やスポーツ団体が参画するモデル 等

3 地域ならではの連携

地域の実情に応じたカスタマイズを推進
様々な手法から適したものを選択したり、複数の手法を組み合わせるモデル
地域に根差したスポーツや特有のスポーツ環境などを生かしたモデル 等

4 校内体制の充実

地域移行が整う間も、生徒の活動の保障や教員の負担軽減等の継続は必要
であり、地域移行の準備と並行して、校内体制を充実するモデル 等
学校部活動への地域人材派遣の継続を想定



地域移行の目標・在り方に関する考え方

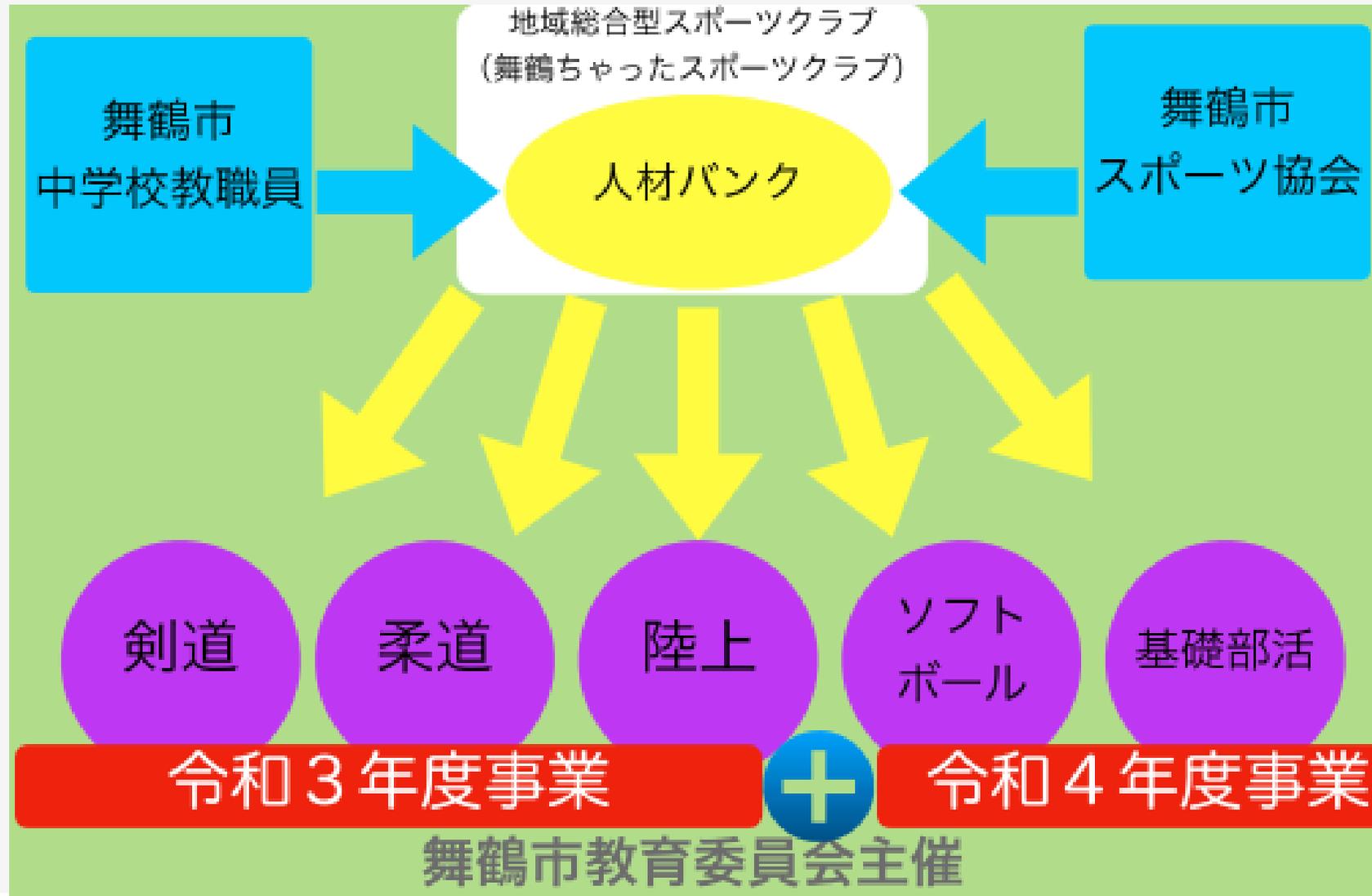
	対象地域	属性	拠点校	地域移行に取り組むことになった経緯・理由
1	舞鶴市	市部	7	舞鶴市は、地域内の中学校運動部活動が活発であり、休日の運動部活動の段階的な地域移行は、教師の負担軽減を図るための早急の課題であると考えたため。

- ・ 在り方や目標

生徒にとって望ましい持続可能な部活動を推進するため、生徒が自身の興味関心に基づきスポーツ活動に取り組むことのできる仕組みを構築するとともに、学校の働き方改革の実現に向けて、特に休日における教師の負担軽減を図るため、地域の実情、特色を踏まえた休日の運動部活動の段階的な地域移行を進める。
- ・ 取組内容

 - 1 モデル地域の実践研究から、運営団体の構築及び地域人材の確保の進め方、費用負担の在り方などの課題について検証し、府内に研究結果を発信・共有することで、各地域における運動部活動の地域移行の取組につなげる。
 - 2 「京都府地域部活動推進検討委員会」を設置し、生徒にとって望ましい持続可能な部活動と教職員の働き方改革の実現に向けた地域部活動の在り方について、モデル地域における実践課題の検証や今後の府の方向性に対して、広く意見を求める。
- ・ 直面している課題

 - 1 中学校や高等学校の部活動を指導する教師への調査では、部活動指導の悩みとして「専門的な指導力が不足している」「校務が忙しくて部活動指導の時間がとれない」と回答するなど、部活動指導による長時間勤務が物理的負担の要因となるとともに、経験がなく専門的スキルや知識を有しない教師による顧問配置が精神的な負担になっている。
 - 2 地域によっては少子化が著しく進展し、学校ごとの部活動が維持できない種目があるため、生徒が自身の興味関心に応じて種目に取り組むことができない状況が見られる。



令和3年度の取組

青葉中・白糸中・和田中・城南中・若浦中・加佐中

舞鶴市立中学校66部活動 1500人の行き先

舞鶴市スポーツ協会所属
の各連盟や協会への入会
又は指導者派遣



舞鶴市スポーツ少年団へ
の入会又は指導者派遣



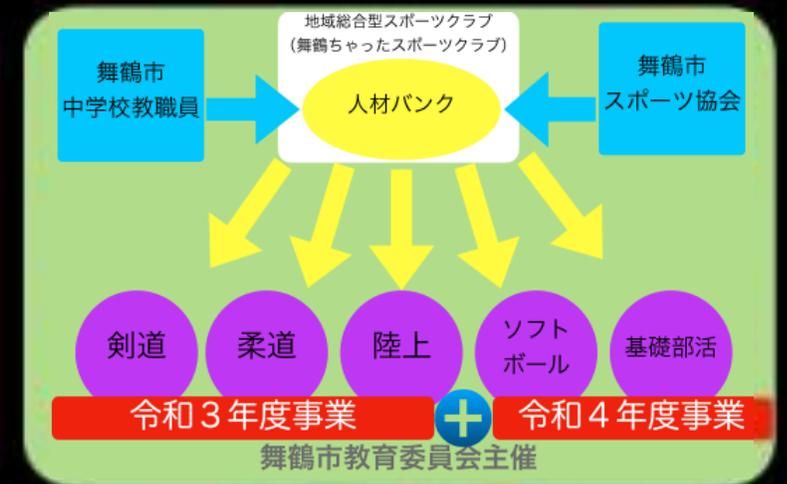
舞鶴市にある府立高校や私
立高校の部活動との連携



地域人材による
新しい活動団体の設立



休日は自分の趣味や家族
との時間として過ごす



基礎部活



【令和4年度 新規事業】

（トレーナークリニック）

- 体の使い方を専門的に学ぶ機会として、トレーナーによる指導を行う。
- 生徒も指導者も参加できる機会とする。

（ゆる部活）

- レクレーションやストレッチヨガなど、体を動かすことの楽しさを知ることが目的とした部活動を行う。

※総合型地域スポーツクラブ（舞鶴ちゃったスポーツクラブ）が主となって実施

令和4年度の取組

剣道・柔道・陸上・ソフトボール・基礎部活

令和4年度地域部活動推進事業の各専門部

剣道専門部



6月より
1ヶ月に2回程度実施

現在、13回実施

柔道専門部

8月より実施開始
計3回終了
(背景)

地域の連盟が定期的に練習会
を開催している

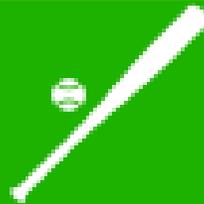
陸上専門部

調整中
12月・1月に実施予定



ソフトボール専門部

11月より実施(雨天中止)
12月4日、1回目開催



基礎部活



「トレーナクリニック」

基礎的な身体の使い方
各競技に適したトレーニング

※運動部員30名程度

基礎部活



「ゆる部活」

楽しんで身体を動かす場
コミュニケーションを広げる場

※30名程度

市町運営型：総合型地域スポーツクラブ運営型 実践事例の取組より

総合型地域スポーツクラブが運営事務局として、地域や中学校等と連携

- 市内の一部地域において、総合型地域スポーツクラブが運営事務局となり、コーディネーターが指導者の調整、中学校等との連絡調整、活動場所の利用調整などを行う。なお、コーディネーターの配置については、多様なバリエーションがあり得る。
- 公認スポーツ指導者や退職教師、兼職兼業の教師、保護者、大学生等の地域のスポーツ指導者が、総合型地域スポーツクラブに所属して指導を行う。

舞鶴ちやったスポーツクラブとは



京都府舞鶴市内で、平成28年より老若男女、世代問わず、誰もが健康に過ごすための「文化・スポーツ教室」や「サークル」をはじめ、行政・地域単位でのスポーツイベント、企業の福利厚生、体力測定や健康教室などを開催しています。



舞鶴ちゃったスポーツクラブから考えたメリット

舞鶴市には、
すでに既存のスポーツ団体がたくさんあった。

その一方で、

- ・ 1つの競技だけに従事する指導者
- ・ 勝利至上主義
- ・ 楽しくスポーツを体験する場がない
- ・ 各競技連盟に登録していない人材の埋没

ちょうど、地域人材の有効活用を考えている
時に、部活動の地域移行の話があった。

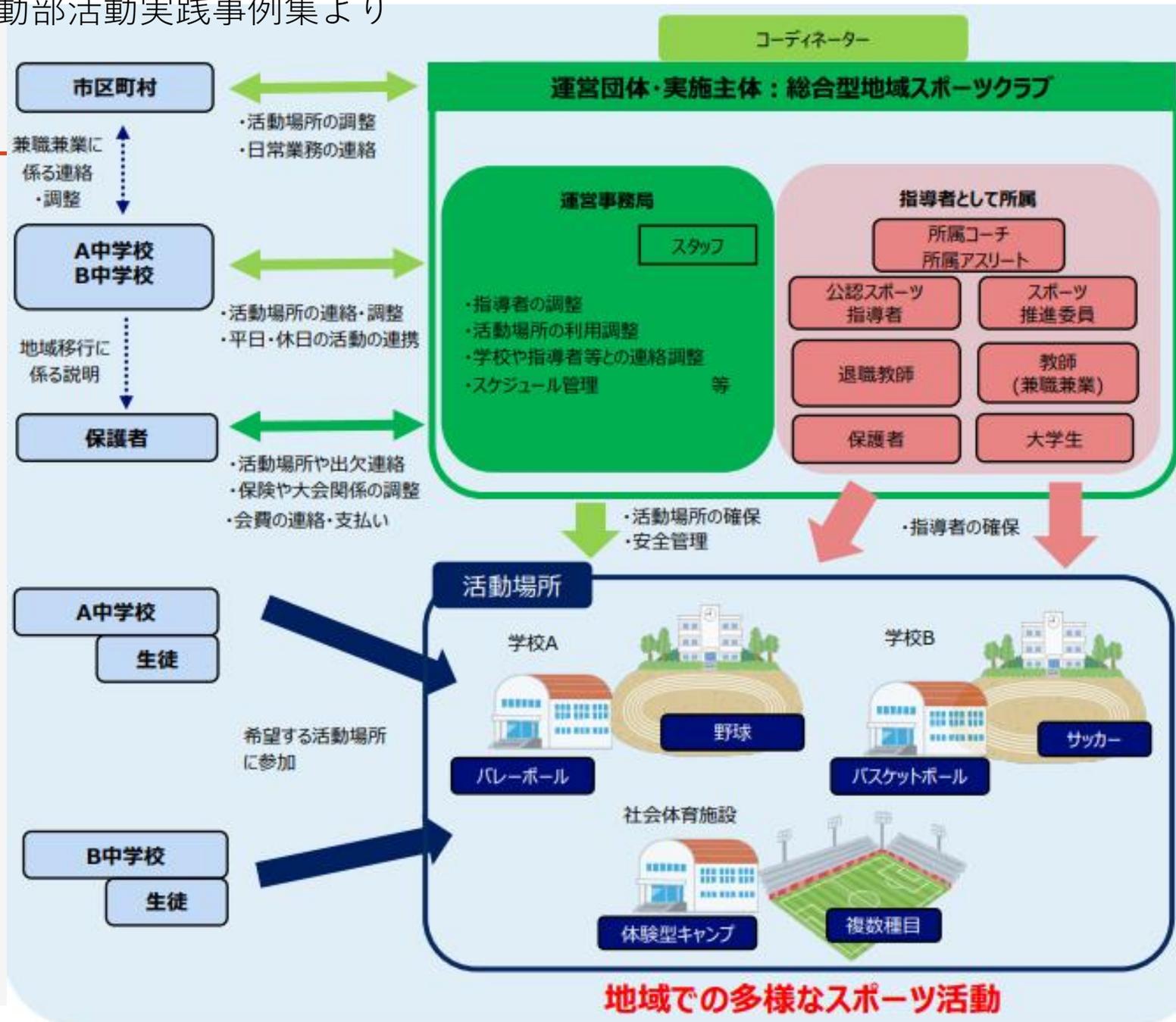


舞鶴ちゃったスポーツクラブから考えたメリット

子どもたちの活動の場所をなくしてはいけない

との思いで、中間組織的「地域部活動人材バンク」を立ち上げ、地域の指導者を確保し互いの指導力を高め合うことを期待して「地域部活動のモデル事業」に協力することになった。





総合型地域スポーツクラブ全国協議会 令和4年度登録クラブ

全国で1015クラブ 近畿で109クラブ

25	滋賀県	滋賀県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会	25
26	京都府	京都府広域スポーツセンター京都府総合型地域スポーツクラブ連絡協議会	12
27	大阪府	大阪府総合型地域スポーツクラブ連絡協議会	19
28	兵庫県	総合型地域スポーツクラブ兵庫県連絡協議会	11
29	奈良県	奈良県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会	25
30	和歌山県	総合型地域スポーツクラブ和歌山県協議会	17

ゆる部活：目的

部活動が地域に移行する！

負けても 勝っても たのしいよ！



子どもたちの豊かな
スポーツライフを創造する

舞鶴ちゃったスポーツクラブの取組内容

運営団体	団体名	運営団体の確保方法・経緯	
		舞鶴市教育委員会・舞鶴ちゃったスポーツクラブ（総合型地域スポーツクラブ）	<ul style="list-style-type: none"> 4月に舞鶴ちゃったスポーツクラブへ人材バンクの設立を依頼。スポーツ協会へ地域人材の確保の協力を要請。校長会へも協力の依頼。コロナの影響により、計画を見直し、7月に第1回合同会議を開催。
	課題・困難	対策・工夫	
	<ul style="list-style-type: none"> 運動部活動を地域に移行する際の受け皿としては、舞鶴ちゃったスポーツクラブ（総合型スポーツクラブ）、舞鶴市スポーツ協会、舞鶴市スポーツ少年団等が考えられる。 舞鶴市として地域移行するにあたって、さらに委員会を充実させる必要があると考えるが、メンバー構成等が課題である。 運営する団体の長が集まって会議を年に数回開き、情報交流をしながら進める必要がある。目的を明確にしながら横の連携を密に取らなければならないと考える。 財政支援については、舞鶴市が支援することは現状では難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 運営団体構築の準備期間が必要。どのようなメンバーに集まっていたら、スムーズに、そして多様な視点で地域移行が進んでいくのかを考える事が大切である。 	

実証実験における課題

実践研究で直面した課題

- コロナウイルス感染症にかかわる感染防止のため、多くの実践研究が中止になった。年3回予定していた会議も中止。種目別に地域部活動に取り組む予定だった部活動も中止になった。

課題に対する対応策・工夫

- 緊急事態宣言下やまん延防止措置中は、中止にせざるを得なかった。

今後に向けた方針・方向性

- 実践研究に参加できる部活動数を少しでも増やしていく必要がある。